

# 「個人的意見ですが」

キャパシタフォーラム会長 堀 洋一（東京理科大学）

## ■個人的意見1

「個人的意見ですが」と言う人が嫌いである。プレゼンの最初や質問への答えをしったりするときに「個人的意見ですが」という。それでつい「個人的でないご意見も述べてください」などといじわる質問をする。

「個人的意見」には二つのケースがあると思う。

### (1) 発言に対する責任を放棄する

ご披露した意見は正しいと確信している。しかし少々過激なので誰かえらい人に叱られ、組織の中で自分の地位を失うかも知れない。それで「個人的意見ですが」と付け加え、これ以上の議論を戦わすつもりはありません、でき心でちょっと言ってみただけですので怒らないで頂戴、という「なんちゃって防衛線」を張る。職を失ってはたいへんだから、保身のためにも、組織の悪口にならないように細心の注意をはらう。

しかし、この言い方は、あなたがたは「一般的で凡庸な意見」の持ち主であって、深く考えることなく毎日ぼ～っと生きてるでしょう、と人を小馬鹿にする悪意を感じる。さらに自分の組織の柔軟性のなさを暗に批判し、またそこに居続けてしまっている本人の意気地なさをも暴露している。

ついでに言う「誰かえらい人がいて叱られる」というメンタルは、日本人の心に深く巢食っている。「えらい人」は、会社のえらいさん、SNSの無責任な大衆やマスコミであることもしばしばであろう。進駐軍のマッカーサーか、天皇陛下か。でもそんな人はそもそも組織のトップに立てるだろうか。中間管理職レベルが形式的に気にするだけであろう。

「個人的意見ですが」は、大阪の「知らんけど」の標準語訳である、と私は言ってきた。ただ、大阪人は「知らんけど」と言われたら、すぐに「なんや知らんのかい、あほぬかしよって」と返す儀式があって完結する。一方、東京では、「個人的意見ですが」に対して「なんや個人的意見かい、馬鹿言うな」と返す儀式はない。だから、正確には同義ではなさそうである。

「個人的意見」を言うなら、「個人的でない一般ピープルの意見」を披露すべきである。そして自分はそれには賛同しない理由を述べれば、説明はよりクリアになる。この意味において、冒頭の質問は実はいじわる質問ではなくお助け質問である。

### (2) 本当に自分のオリジナルな意見であることを強調したい

つらつら考えるに、(1)のケースはまれであって、この(2)のケースの方が多いと思われる。誰も考えつかない素晴らしい考えでしょう、と強調したいときに使う。それなら前向きの姿勢だからたいへん結構である。それでも、「あなたはお勉強が足りないから気づいてないでしょうけどね」という含みがあることは否めない。「あなたと違うんです」という福田もと首相が言ったような上から目線を感じるから、やはり嫌な気分になる。ただそれなら、慇懃無礼に「個人的意見ですが」などと言わないで、まっすぐに主張すればいいではないか。個人的意見こそが意見そのものなのだから。わざわざ「あなたと違うんです」などと含ませて聞き手を馬鹿にしては、反感を買うだけである。

さて、わがスーパーキャパシタはどうだろうか？「エネルギー貯まらないじゃないか、あまり使われてもないし、なんで？」と聞かれて、あなたはどうか答えるか？「キャパシタはパワーに優れ、寿

命が長い。環境にやさしい。皆さんお勉強が足りませんよ。もっと使うべきです。個人的意見ですが。」と言うか？「全固体電池はゲームチェンジャーになるか？」「いや、エネルギー密度は期待はずれだし、クルマに乗せるには難題だらけです。あのトヨタが何十年もやっているのに一向に実用にならないじゃないですか。個人的意見ですが。」「世の中窮屈ですねえ、日本人はちょっと真面目すぎやしませんか。人の目なんか気にしないで、もっと伸び伸びやった方がいいと思います。個人的意見ですが。」末尾に「個人的意見ですが」を付け加えるとソフトになる？どうですかねえ。



Stable Diffusion が描く「個人的意見」のイメージ

## ■個人的意見 2

さて、最近非常に危惧していることを述べる。これは、2年前の会報17号にも書いたし、最近、いくつか修正が入ったけれども「明電時報」の巻頭言に同じ内容で載せてくれた。ただ、数年では世の中は一向に変わらず、ますます悪い方のシナリオに向かっているように思えてならない。個人的意見ですが。

脱炭素CNの旗印のもと世界は持続的繁栄に向けて舵を切ったという。しかし、この「世界」に「日本」は入っていない。つまり、自国の産業、とくに自動車産業を守りながらCNをやる、という視点がすっぱり抜けている。

クルマの電動化や再生可能エネルギーの大量導入は膨大な量の二次電池を必要とする。しかしその電池の生産は国内ではできない。日本の電源構成はCO<sub>2</sub>を出しまくるから作ってはいけないと世界の集中攻撃に合ってヘナヘナとなっている。せっかくいい電池を発明しても生産は自国ではできない。日本以上にCO<sub>2</sub>を出しまくる中国は、自国生産の電池を世界に大量供給する。

これは政治力である。CFで見学した中国の浦東バスやNIOのクルマを見るとよくわかるが、中国政府はクルマのビジネスと電池のビジネスを上手に切り離している。クルマ屋が電池の心配（すなわち、電池製造時のCO<sub>2</sub>排出、リユース、リサイクルなど）をせず、安心してクルマのビジネスができるように政府が切り分けている。かたや日本では、KS省が多くの業界を巻き込んだ大きな組合を作って、電池の評価や国内生産はどうしましょう、などと智慧を出し合っている。いいアイデアが出れば国はサポートするが、ビジョンをもった指導はしないというスタンスである。どちらが世界を制するかは明らかである。個人的意見ですが。

再エネ導入に必要な大量の電池も中国から購入し彼国を潤す。脱炭素の COP 目標は多くの国で達成できずに終わって舌を出す。その中で日本だけが脱炭素をクソ真面目にやり、自動車産業や石炭火力を骨抜きにする。日本に再エネが行き渡るころには、日本は超貧乏国となり舞台から姿を消し、共通語は中国語になるだろう。こうなっては嫌だから私は人生を逃げ切る。

しかしながら、脱炭素やクルマの電動化を進めないと世界に遅れてガラパゴスになる、と「まじめすぎて困ったちゃん」有識者がマウントをかけ、政府は翻弄される。優等生でいれば「僕ちゃんお利口さんですね」などと褒められ、世界は日本を見放すことはないというから、もう宗教である。これが誤りであることは、例えば、ハイブリッド車や石炭火力の効率化で成した日本の大きな貢献は、世界の中で誰も称賛してくれないことだけでも明白である。

すなわち「敵は本能寺にあり」。世界はこの日本人の精神構造を知り尽くしている。高邁な目標を提示すれば、素直な日本人は中でつぶし合って自滅する。日本がつぶれても世界は持続し、大目標は達成される。そして鬼の世界が来る。これを鬼滅の刃ならぬ、自滅の刃という。

ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルの紛争、中国の覇権主義などを見れば、きれいごとで世界は動かないことはかなり明白である。われわれはあまりに能天気ではいけない。個人的意見ですが。

いま日本に必要なのは、(a) 安全な原子力発電所の再稼働、(b) 効率のよいエンジン車やハイブリッド車の堅持と普及、そして (c) 電池からの脱却 (すなわち走行中給電)、この 3 点である。これを政治家は内外に向けて堂々と発信し、迷うことなく推進してほしい。

最後に、わが国が改めるべき 3 点を述べる。

(イ) 白黒つける習慣をやめる

日本人は白黒つけたがる。ガソリン車と電気自動車はどっちが CN ですか？電池とキャパシタはどっちがいいですか？原子力ですか再エネですか？どちらにも価値がある。共存を認めず二者を対立させて白黒つけたがり、選択と集中という私の大嫌いな言葉がまかりとおる。日本人は多様性に弱いというがまったくそのとおり。たいへんよくないことである。

(ロ) 短期の成果を求めない

「やって良いことが書いてある」我国のルール作りがこの根源にある。ルールブックに「やってはいけないことが書いてある」諸外国とは正反対。国家プロジェクトでも「やることは全部」書く必要がある。もし書いていないと、なににはやらないのか？と有識者が鬼の首をとったように言い追記を要求する。そして「書いたことはやらなければならない」となる。これがいけない。書いたことが年度末に完了していないと最低評価をくらって翌年の予算がゼロになる。将来を見通す貴重な成果よりも、書いたことの形式的な達成率が重視される。これでは、だれもチャレンジなことはしなくなる。

(ハ) 棲み分けを求めない

どこかでよく似たプロジェクトを見つけてきて、あれとこれはどこが違うのか、と棲み分けを要求する。それが新規性や独創性だと勘違いしているのである。たくさんの人が似たことをやるのは、その技術が重要であることの証左である。

高名な有識者の意見を聞きすぎではいけない。有識者の多くは自分の成功体験を自慢に思っていて何にでも当てはめようとする。あなた老害になっていますよ、そろそろ潮時ですよ、と言ってくれる友人がいない悲しい人々である。自分で勇退できないのなら、周囲が引導を渡さないといけない。

以上は小生の「個人的意見」である。ちょっと言ってみただけだから、賛同しなくて結構である。逆に言葉尻をとらえてバッシングしないように願いたい。

### ■個人的意見3

この原稿を書きながら、あるシンポの忘年会の日程調整をしている。会社のメールを土日にチェックしない人が結構いて日程調整が滞る。それで幹事の元大企業のえらいさん（F）と小生の秘書（K）と交わしたやり取りである。（H）は堀である。

H：土日は会社のメールはチェックしないのかなあ。調整が遅れるね。

F：人による。会社によってはPC使用も禁止。自分も土日にはメールしないのが基本。緊急性のある時は電話する。

K：会社PCおよびメールは会社によって厳しい制限がある。〇〇建設はめっちゃ厳しい。〇〇ソニックも厳しいらしい。後者の若手とシンポの登録でやり取りした際に、会社アドレスとPCは休日開けられないので、個人メールに変えてくれと要望された。

F：会社によって自動転送可能な所と残業管理のためにNGな所がある。切り分けないと自己の勉強には支障がある。

H：土日に会社メールを読み書きできないようにすることで、我社の情報セキュリティは高い、と自慢するようなメンタルが嫌い。忘年会幹事に迷惑をかけていることは明白だからgmailにでもしろよ。これはPPAP（パスワード付きzipファイルをメールに添付して送付し、同じ経路でパスワードを後送するメール送信法）と同じメンタル。トヨタ系はまだやめない。会社の情報管理部がPPAPで情報セキュリティが保たれると思っていることを世間に吹聴しているのだから、そんなところに若者は就職しないよ。早くやめろといつも言うけどやめない。そういう会社の人も、「個人的意見では」全然効果がない、という。

K：個人的意見ですが（笑）、情報セキュリティより、休日に仕事をさせないという意図を感じる。サービス残業、休日出勤はさせない。しかし、私の個人的意見では、休みも大事だが確実に競争力が落ちる。最近の若手はしっかり休むし残業もしない。賢いけど命じられたことしかやらない人が多くなった。

F：会社の働き方改革の一環として、業務との区別がうるさく言われている。休暇中の上司から部下への連絡は業務になるのでNG。やらされ感がある人たちには防波堤になるだろうが、前向きな姿勢で楽しみながら仕事をするアグレッシブな人達にはそぐわない。残業時間過多で自殺という報道がよくなされるが、土曜日が出勤日だった頃200時間近い残業をしていた小生は疑問に思う。新しい発見・勉強ができ、かつ沢山手当が付く。将来ビジョンを持ち、会社・上司と共有することで自己の発展を喜べるなら、時間の制約・拘束といった観念から脱却できる。何かあったら対策として追加されるルールはあっても引かれるルールは見かけず、バランスに欠けたものになっている。業務を教えるよりパッションを伝授した方が人は伸びると思うが、背中を見させるなんて古いかな。

以上、われわれ3人の「個人的意見」であり、少々面白いと思ったので書いてみただけである。賛同しなくて結構である。逆に言葉尻をとらえてバッシングしないように願いたい。なお、シンポの忘年会は楽しく開催され、新年へとつながったと思われます。個人的意見ですが。

以上